

凹凸版刷り

(110分)



【セッティング】 プレス機には、版と紙を置く位置が分かるように枠が示されている。子どもたちは、重ねた版がずれないように注意深く、枠に合わせて版を置いた。



【多色刷り】 使用する紙は予め湿らせておき、凹部のインクをしっかりと刷り取れるようにした。いきものの版の裏には、背景版の色が付着するが、塩化ビニールシートが貼ってあるので、溶剤で簡単に除去できた。

完 成



【作品選びとサイン記入】 色インクは3色用意しておき、オレンジ、ピンク、水色の順番で刷った。版に少しだけ残った前の色と次の色が微妙に混ざり合って、色彩豊かな作品が出来た。3種類の作品の中から展示用に一点選び、画面の右下にサインを記入した。



【記念撮影】 美術館エントランスで、出来たばかりの作品を持って記念撮影を行った。どの作品も色々な生きものが、空想オリンピックを楽しむ様子が描かれていて観る人の目を楽しませてくれた。

展覧会

『がんばれ！ワクワクいきものオリンピック』展

会期：2019年8月6日(火)～8月10日(土)

10時～17時 ※8月6日(火)は13時から、8月10日(土)は13時まで

会場：町田市立国際版画美術館 市民展示室A室

3種類の色違い作品の中から、一番気に入った作品を簡易額装し展示した。作品の横にはワークシートと感想文を貼り、構想と完成作品、そして制作を通して感じたことなどを一緒に展示了。また、制作工程や子どもたちの写真をパネル展示し、子どもたちが今回のテーマを、どのように楽しんだか分かるように工夫した。今回は空想オリンピックにちなんで、使用した版のモビールの他に、作品をひもで吊るし万国旗のように仕立てた。さらに、指導にあたった学生の作品も展示し、版画の多様性を観にきた子どもたちにも知ってもらい、版画への興味を持ってもらうことができた。会期中、191名が子どもたちの作品を鑑賞した。



受講者の声（感想文より一部抜粋）

- ▶イルカのレースがどうなったか、お話しを作ったのが楽しかったです。(3年)
- ▶版画むずかしいことだらけだけど、できるととてもうれしいです。(4年)
- ▶「こうすると上手にインクがぬれる」など、新たな発見がありました。(5年)
- ▶子ども講座の最初の日、全く知らない子ばかりできんちゅうしたけど、すぐなれてきて、楽しく進めることができました。(4年) ▶はん画ですりこむとはんたいになることが分かって、強になりました。(3年) ▶プレスを回すのも楽しかったです。(3年) ▶知らない人といっしょに作ったことで、新しい人を知ることが出き、友達ができたと思います。(6年)

学生ボランティア

高野 雄生 田邊 吾郎 梶原 由莉子 岸本 桜子
桐谷 実結 桑森 晶子 佐々木 文寧 新井 むつみ
島田 珠里 田中 日奈子 田中 萌 山岡 愛実
井上 あかり 田中 紅葉 森田 胡桃

2019年度「夏期子ども講座」活動報告書

発行年月日 2019年9月30日
編集・印刷 東京学芸大学版画研究室 清野泰行
発 行 町田市立国際版画美術館

2019

町田市立国際版画美術館
2019年度夏期子ども講座活動報告書

紙版画でつくる、 ワクワクいきものオリンピック

紙版画でつくる、ワクワクいきものオリンピック

町田市立国際版画美術館では、子どもたちが美術館に親しむことをねらいとして、2006年から継続的に「夏期子ども講座」を実施しています。当初から東京学芸大学版画研究室の清野泰行教授の企画協力により、さまざまな版画技法を取り上げ、制作する楽しさをじかに体験してもらう場を提供してまいりました。ここに2019年度の報告書をお届けします。子どもたちの感性をはぐくみ、多様な可能性を引き出そうと構成された講座内容をご覧頂ければ幸いです。

講座概要

タイトル：「紙版画でつくる、ワクワクいきものオリンピック」
内 容：厚紙を使った多色刷り凹凸版画で、色々ないきものによる空想オリンピックのワンシーンを作る
日 時：2019年7月27日（土）、28日（日）10時半～15時半
会 場：町田市立国際版画美術館 アトリエ・版画工房
対 象：両日とも参加できる小学3～6年生 定員：20名 受講料：2,000円
指 導：東京学芸大学 清野泰行教授および同大学在学生
募集期間：6月12日（水）～7月7日（日）
主 催：町田市立国際版画美術館 企画／協力：国立大学法人東京学芸大学

準備するもの

下 絵：ワークシート（受講者に事前配付）、オリジナル図案集、下絵用紙、トレーシングペーパー、その他
版制作：ドライポイントプレート（板紙凹凸版 27×39cm）2枚、補強用塩化ビニールシート
アクリルメディアム、ボールペン、筆、カッターナイフ、その他
刷 刃：SN-画業紙 TMK・画用紙厚口（四つ切り）、サクラ版画絵具油性、ゴムローラー、紙ヘラ、インクトレー
寒冷紗・人絹（インク拭き取り用）、新聞紙、水張りテープ、銅版プレス機、その他

1日目

下絵制作

（ 65分）



【ワークシート】事前準備として、予めワークシートにイメージする競技やいきものを描いてもらった。いきもの特技や活躍の場面を思い描くことで、絵画的イメージを膨らませることができた。



【凹凸紙版画の解説】薄い紙を貼り付けてつくる紙版画（凸版）は図工の時間で経験済みだが、プレス機を使った経験はほとんどない。どのようにしくみで印刷できるのか、用意したサンプルを見せながら解説をした。



【いきもの版（凹版）制作】下絵をトレーシングペーパーに写し、それを裏返して板紙にトレースした。刷りの段階でカットした版が破損しないように、板紙の裏面には、事前に塩化ビニールシートを貼っておいた。

紙版制作

（ 60分）



【いきもの版（凹版）制作】下絵をトレーシングペーパーに写し、それを裏返して板紙にトレースした。刷りの段階でカットした版が破損しないように、板紙の裏面には、事前に塩化ビニールシートを貼っておいた。

凹版刷り

（ 80分）



【インクのせ】ローラーを転がしながら、インクを紙版にのせていく。凹版画のため凹部にインクが入り込むように、紙べらも使ってしっかりインクを詰め込み、紙の表面に残った余分なインクをしっかり取り除いた。



【ブレセ機による印刷】紙版のインクのせ・拭き取りはアトリエで行い、試し刷りは版画工房にある2台のブレセ機を使った。子どもたちはブレセ機の大きなハンドルを回して刷りを楽しんだ。



【拭き取り】最初に寒冷紗を使ってインクを拭き取ったのち、人絹でさらに拭き取った。初めは拭き取りに戸惑っていたが、慣れてくると手際よく、インクを拭き取ることができるようになった。



【凹凸紙版画の解説】紙をめくるまで、どのように刷られているのか分からないところに、版画の面白さがある。子どもたちは版の上のインクが紙にしっかりと写されていることを確かめていた。

2日目

下絵と紙版制作

（ 65分）



【いきもの版（凹版）への加筆】カッターナイフで浅く切れ込みを入れ、紙の表面を薄くはがした。板紙の中は滑らかなでないため、拭き取った時にインクが残る。その状態で印刷すると、この部分は濃い色面になる。



【背景版（凸版）の制作】背景の版にトレーシングペーパーを使って下絵を写しているところ。ボールペンで強く描いたところが溝となる。凸版刷りでは、溝の部分にはインクが付かないため白く抜ける。

凹凸版刷り

（ 40分）



【背景版（凸版）へのインクのせ】インクを付ける際、凹部を潰さないように、薄く均一にローラーで色インクをのせていった。色を変える時は、印刷後、版に新聞紙をのせ、よくこすって余分なインクを取り除いた。



【背景版にいきもの版をのせる】背景版より大きめの新聞紙の上に、背景版をのせ、その上にいきもの版をのせた。印刷する時は、新聞紙の両端を持って班ごとに版画工房に移動した。油性インクはすぐに乾燥しない。